戸新聞　10/26 神戸　（第３種郵便物認可）

■ 姫路市 子ども通院医療費 助成拡大を検討

姫路市は、中学３年生までの通院医療費の助成拡大に向け、検討に入った。県内全41市町のうち、24市町が中３までの通院医療費を無料化している中で、姫路の無料対象は２歳児まで。市議会が無料化を求める市民団体の請願を採択するなどし、これまで慎重姿勢だった市側も動いた格好だ。これから本格化する来年度予算案の編成作業で、財政負担との兼ね合いが焦点となる。（山路　進）

中３まで無料 10億必要

市は従来「受益に対する負担は必要」と拡大に消極的だったが、９月の市議会本会議で、石見利勝姫路市長が「持続可能な形での助成拡大を検討する」と表明した。姫路で子どもが医療機関にかかる場合、現状は入院が中３まで無料、通院は２歳まで無料になる。このための経費は本年度当初予算ベースで10億９６００万円に上る。

市は助成拡大の検討に当たり、無料化する子どもの年齢や世帯の所得ごとに８パターンの経費を試算した＝表①。追加経費が最も多いのは「中３まで・所得制限なし」で約10億２７００万円。現在の約2倍の財源が必要になるとみている。

①姫路市の子ども通院医療費無料化の影響試算額

試算額		
	所得制限あり	所得制限なし
０～２歳	10億9600万円	
３歳～就学前	＋２億2700万円	＋３億 800万円
～小３	＋３億8400万円	＋５億4800万円
～小６	＋５億3300万円	＋７億6200万円
～中３	＋７億 500万円	＋10億2700万円

※2014年度予算を基準に試算

保護者ら期待の声　財政負担との兼ね合い焦点

◇

そもそも子どもの通院医療費については、兵庫県の助成事業がある。ただ県の助成だけでは、子どもが何歳でも無料にはならず、大半の市町が県制度に上乗せして独自助成を実施。姫路の２歳までの無料化なども、市独自の助成によるものだ。

近年、子育て環境の充実や定住促進などを目的に、独自助成を拡充する自治体が増加。居住地によって、行政サービスに格差が生じているのが現状だ＝表②。

②子ども通院医療費の県内の主な市町の窓口負担額

姫路市		神戸市		豊岡市	
０～２歳	無料	０～２歳	無料	０歳～小３	※１日800円まで
３歳～小３	※１日800円まで	３歳～中３	※２割（１日上限500円）	小４～中３	２割
小４～中３	２割				
明石、たつの、宍粟、神河など７市町		西宮、宝塚、高砂、赤穂、相生、市川、福崎、佐用など17市町			
０歳～中３	完全無料	０歳～中３	無料（所得制限あり）		

※一医療機関（薬局含む）ごとに月３回目以降は無料、保険診療が前提

リポートはりま

無料化 県内24市町が導入

姫路に隣接する９市町では、たつの、宍粟市、神崎郡３町など７市町が、中３まで無料化。姫路と同じ中核市の西宮市も４年前、中３までの無料化（所得制限あり）に踏み切った。直後の２年間は受診件数が予想を上回り、補正予算で対応。子ども１人当たりの医療費も増えたが、同市の担当者は「金銭的問題で受診をためらい、子どもを重症化させてはならない」と必要性を強調する。

一方、県内で唯一、独自助成がない豊岡市の担当者は「安易に医者に頼るより、日ごろの健康づくりを重視している」とする。

◇

姫路市内の子育て中の母親らでつくる市民団体は６月、中３までの通院医療費無料化を求め署名活動をスタート。定例市議会が開会する９月までに約１万３千人分を集めた。署名を添えた請願は市議会で採択され、さらに市議会の側も、市長に対する同様の意見書を全会一致で可決した。

市民団体の事務局長で４歳、２歳の子を育てる砂場清生さん(38)は「安心して医療機関にかかれる環境を整えてほしい」と実現に期待をかける。来春までに市がどのような答えを導き出すのか、市民の注目が集まる。